

三-四、謡の横書き楽譜一能〈羽衣〉

坂東 愛子

凡例

- ・謡の横書き楽譜は、詞章と基本的に謡われる音の動きを記したものである。拍子合の部分には、拍子感の目安として2拍、6拍到拍線を付加し、三ツ地謡で生じる拍の縮約箇所には、▼を付加した。
- ・譜線は各流派の音階概念に従い設定した。ヨワ吟の譜線は、基本の三つの音（上音・中音・下音）を実線、補助音（クリ音・上ウキ音・中ウキ音・下ノ中音）を点線とし、呂音（点線）を適宜に付加し、サシや掛ケ合（カカルなど）部分は二音（上音・中音）を実線とした。ツヨ吟の譜線は基本の二音（上音・下音）とした。地取りは便宜上、コトバと区別するために一線上に記譜した。
- ・謡の詞章は、シテと地謡をシテ方観世流、ワキをワキ方高安流の謡本に従った。平仮名は現代式仮名遣いを用い、譜線下部に歴史的仮名遣いを括弧で囲んだ。漢字表記は便宜上、拍の縦線や旋律の変化などが当たる場合に仮名で表記した。発音変化を伴う詞章を譜線下部に記し、呑・含・ツメルなどその種類も記した。
- ・基本的にはモチを表記していない。
- ・基礎的なフシであるクリ・入り・マワシ・フリ・中マワシ・ハル・走りは、譜線上部にその名称を付加し、旋律移動がイメージしやすいように図形的な曲線へとそれぞれ記号化した。フリを引キで謡う場合は、フシ名称を表記しない。
- ・基礎的なフシで生じる産み字は太字カタカナで表記し、ウキ・落シの産み字は小文字の細字カタカナで表記した。ウキ・落シの扱いは基本的に映像音源に従うが、実践での多様性が大きいため、流儀内の慣的な謡い方も考慮して表記した。
- ・演者が伝承している音の高さが謡本に示されたものと差異がある場合は、目安として音の高さに↓↑を付加した。

楽譜の制作は、坂東が原案を作成し、複数の研究会メンバーによる校正作業の後、シテ方河村晴久氏とワキ方有松遼一氏を囲んで検討会を重ねて修正をおこなった。最終的な楽譜に丹羽幸江氏が点検を加えた。楽譜を貼り付けるタイミングの測定は、関本彩子氏が担当した。その後、複数のメンバーで確認・修正をおこなった。

謡の横書き楽譜一能〈羽衣〉

1. 漁夫の登場

(ワキ)

一声 ^{ツヨ吟} か ^{拍子合} ざはやの

風 早

1

^{入マツシ} み ^{入マツシ} のうらわを ^{入マツシ} 薄ぐ ^{入マツシ} ねの

(上) 三保 浦 船

(下)

2

^{シオリ} う ^{マツシ} ら ^{マツシ} び ^{マツシ} と ^{マツシ} 騒ぐ

浦 人 ざわ

3

^{マツシ} なみ ^{マツシ} 路 ^{マツシ} かな ^{マツシ} ア ^{マツシ} ア

波 じ

4

名川サシ ^{ツヨ吟} これは三保の松原に ^{拍子合}

みお まつばら

5

伯陵と申す漁夫にて ^{ツヨ吟} せ ^{ツヨ吟} ね ^{ツヨ吟}

はく けう ねお ぎふ 候

6

石里の高山に雲たちまちに起り

ほんり におざん くら おこ

7

一棧の明月に雨初めて晴れり

いちろお めいげつ あめはじ は

8

げに長閑なる時し ^{マツシ} イモヤ ^{マツシ}

のどか

9

春の景色松原の ^{マツシ}

はる けしき まつばら

10

波立ち続く朝霞 ^{フリ} イモヤ ^{マツシ}

なみた つづ あさ がすみ

11

つきも残りの天の ^{マツシ} はら ^{マツシ}

月 の 原

12

及ばなき身の眺め ^{マツシ} にも ^{マツシ} オ ^{マツシ}

おは なが

13

心せら ^{マツシ} なる ^{マツシ} けしき ^{マツシ} か ^{マツシ} ばら ^{マツシ}

心せら なる けしき か ばら

14

(下歌) (心拍揃) ^{フリ} ^{マツシ} ^{マツシ} ^{マツシ}

わすれぬやま ^{マツシ} じを ^{マツシ} け ^{マツシ} て ^{マツシ} き ^{マツシ} み ^{マツシ} が ^{マツシ} た ^{マツシ}

忘 山 路 分 清 見 湯

15

はる ^{マツシ} み ^{マツシ} お ^{マツシ} の ^{マツシ} ま ^{マツシ} ^{マツシ} ばら ^{マツシ} に ^{マツシ}

遙 三 保 松 原

16

17

18

19

20

21

22

23

24

波は音なきあさな
朝風 ぎに

25

つりびと多きおぼねかたな
釣人 小舟

26

2. 天女の登場

つりびと多きおぼねかたな
釣人 小舟

27

詞 我三保の松原に上り。
われ

28

浦の気色を眺むる所に。
いしき

29

虚空に花降り音楽聞え。
こくろ

30

麝香四方に薫ず。
れいき

31

これたは事と思わぬ所に。
こと

32

これなる松に美しき いさか 衣懸かれり。

33

立ちよ見れば色香妙に いろかたえ 帯の衣にあず。

34

いかさ取りて帰り古き ふる 人にも見せ。

35

家の室となさばやと (た) 思い候。

36

(シテ)
呼掛 のう — その衣は (た) 此方 こなた のにて候。

37

何しに め 召され候ぞ。

38

(ワキ)
 これは拾 (た) いたる衣にて候程 きつ に取りて (た) 帰り候よ

39

(シテ)
 それは天人 てんじん の め 羽衣とて。

40

たやすく人間に与おべき^{あといふ} 物にあらず。

41

もとの如くに^{ごと} 置き給え^(へ)

42

(ワキ) そもこの衣の^{おんぬし} 御主とは。

43

さては天人にて^{ましますかや。}

44

さもあらば末世の奇特に^{おのせきとく} とどめ置き。

45

国の室と^{なすべきなり。}

46

衣と返す事^{あるまじ}

47

(シテ) 悲しやな羽衣なくては飛行の^{ひざえう} 道も絶え^(へ)

48

天上に帰らん事も^{カワ(不)}叶おまじ。

まんじょう

49

さりとては返し^タ賜ひ給え^(へ)

50

(ワキ) サツ上音の 一字トシ

カカシヨロシ相野合の御言葉を聞くよりも一。

おんごば

51

いよいよ伯陵力を得一。

はくりょう ちりう え

52

詞 もとよりの身は^ワ心なき。

53

天の羽衣^{あま}と^ワとり隠し^{かく}。

54

カカシヨロシ相野合の 叶おまじとて立ち退けば一。

カワ(不)

55

(シテ) 一字トシ

今はさながら天人も^ワ。

56

(上) 羽衣き鳥の如くにて
 (中) はね とり ごと

57

上らんとすれば衣はし
 あが

58

(ワキ) 三字トシ
 地に又住めばげかいなり
 下界

59

(ツテ) 一字トシ
 とやあらんかやあらんと悲しめど

60

(ワキ) 三字トシ
 白陵衣を返さねば
 はく りょう ぬぎ

61

(シテ) 一字トシ
 力及ばず
 むら ら お ち

62

(ワキ)
 せんか
 たも
 ↑ ↑

63

(地謡) ヨワ吟・拍子合 (ワ・拍の縮約)
 上歌 (9) 1 2 6
 (1) なみだのつゆのたまかづら
 (2) 涙 露 玉 鬘
 (3)
 (4)

64

クハ入マワシ

65

66

(シテ)ヨワ吟・拍子不合

下詠

67

68

69

(地謡)ヨワ吟・拍子合

下歌

70

71

(地謡)ヨワ吟・拍子合

上歌

72

73

74

75

76

77

78

79

80

3. 天女と漁夫の問答

(ワキ)
詞 いかになし申し候。
そらう

81

御姿を見申せば余りに 御いたわく候程に。
おん 姿 余り 御 いたわく 候程に。

82

衣を返し 申ぞおするにて候
(さう) そらう

83

(シテ) あら嬉しや此方へ 賜わり候え
うれ 嬉しや 此方へ 賜わり候え

84

(ワキ) 暫く。承り及びたら 天人の舞樂。
しばらく。 承り及びたら 天人の舞樂。

85

ただ今此所にて 奏し給わば。
今 此所にて 奏し給わば。

86

衣を返し 申すべし

87

(シテ) 嬉しやさては天上に 帰らん事を得たり。
うれ 嬉しや さては 天上に 帰らん事を得たり。

88

この喜びに[∨]とてもさらば。

89

人間の御遊の[∨]形見の舞。

89

月宮を廻らす[∨]舞曲あり。

91

ただ今此所にて[∨]奏しつづ。

92

世の憂き人に伝おべし[∨]さりながら。

93

衣なくでは[∨]叶おまじ。

94

さりとは先づ[∨]返し給え。

95

(ワキ) いやこの衣を[∨]返しなば。

96

舞曲をなきて^{ふ かく} そのままだに。

97

天にや 上り^{あが} 給おべき^(ふ)

98

(シテ) いや 疑いは^{うたが(ハ)} 人間にあり。

99

天に偽り^{いつわ} なきものを

100

(ワキ) サツ上音^{ニ字オトシ}
~~かか~~ ~~ヨリ吟~~ ~~挿符合~~ あら恥か(や) さらばと^{はす} 一^ニ。

101

(上) ~~羽衣を返し~~ ~~と~~ ~~おれば~~ ~~と~~ ~~一~~
 (中) ^{一字オトシ} ~~おと(ふ)~~

102

4. 天女が舞う

(シテ) ~~少女は~~ ~~衣を~~ ~~着し~~ ~~つづ~~ ~~か~~ ~~一~~
^{一字オトシ} ~~おとめ~~ ~~ちかく~~

103

~~電裳羽衣の曲を~~ ~~なし~~ ~~一~~
^{一字オトシ} ~~げいしやうい~~

104

(ワキ) 二字オトシ

天の羽衣風にかし

あま 和

105

(ツテ)

雨に潤お花の袖

あめ うるお (不) そで

106

(ワキ) 二字オトシ

一曲をかんで

奏

107

(ツテ) コブシ

舞おとやかや

も (不)

108

(地謡) ヨワ吟 相合

次第

あづま あ の一するがまい

東 遊 駿河舞

109

あづま あ の一するがまいこの時や 始めな

るらん

110

地取り

東遊の駿河舞この時や始めなるらん

あづま あ の一するがまい

111

ヨワ吟 相合不

フリ クワ 入マワシ

24

れり又方の オ天と言っほ

あり (不)

112

(クリ)

(上) 二神出世の古

(中) にしんしゅせ いにしえ
(ツル)

(下)

113

(クリ)

(上) 十方世界を定めしに

(中) じゅうほうぜかい ざん
(ツル)

(下)

114

フガ クリ ヌ マツシ

空は 眼 空は 眼

115

ハル マツシ

ひさかたの 空とは 名付

久方 名付

116

本ユリ

イ—イ—イ—イ—イ—イ—

117

(シテ) 一字トシ

サツ 37吟 然るに月宮殿のありさまへ
珊瑚 しか げん 有様
(ツル)

118

一字トシ

(上) 玉斧の修理とこしなえにしへ

(中) きやくふ しやう (ハ)

119

(地謡) サシ中トシ

(上) 白衣 黒えの

(中) びやくえ こく 衣 天人の

120

(2) _____
 (3) _____
 (4) 数を三五に分つて。
インゴ わか
 (5) _____

121

(4) _____
 (5) _____
 (6) いちげつの天少女。
一月夜と あまおとめ
 (7) _____

122

(4) _____
 (5) _____
 (6) 奉仕を定め役もなす
ほうじやく
 (7) _____

123

(3) _____
 (4) _____
 (5) 我も数ある天少女
われかず あまおとめ
 (6) _____

124

(4) _____
 (5) _____
 (6) 月の桂の身を分けて一仮に粟の
から かり あは
 (7) _____

125

(4) _____
 (5) _____
 (6) 入るかまい
駿河舞
 (7) _____

126

(4) _____
 (5) _____
 (6) 世に伝え
つた いたる
 (7) _____

127

(4) _____
 (5) _____
 (6) 曲とかが
まが オアや
 (7) _____

128

ヨワ吟・拍合

クセ (タリ)

るがすみ。

は 春 霞

129

(130)

(タリ) (フ=拍の縮約)

たなきにけ

びりひさかたの

駿 又方

130

月 かつらの はな

の 桂 花 や 咲く

131

中歌(タリ)

げにはなかつらいめくはは

花 髪 を る の しりかや

132

おもしろやあめならで

面白 天

133

(タリ)

こも 妙 な

りあまつ 風

天

134

雲 通路 き

の かいじ 吹 開 は

135

マツシ

とめの すが

暫 し と

お 留

136

マツシ(ク) マツシ フリ

このまらの春のいろみおがはれ
松原は春色三篠崎

137

マツシ(ク) マツシ(ク) フリ

かた富士のゆき
清見湯

138

ハル マツシ 入 中マツシ

のあけぼの
春曙

139

ハル

たぐいもまつかぜものどかきる浦
種法松風長閑のあけぼの

140

その上あかつちは
うえ天地

141

清マツシ(ク)

何を隔て
へた 玉たまがきの

142

どの神の
うち内外 御 みすえにて 齋

143

月
も曇らぬ日の本也

144

(シテ)

きみみかーよはあまのはごろもまねにきて
君 代 天 羽衣 錦 来

145

(地謡)

なづとも尽きぬいわおぞとホ
撫 巖

146

開くおのゝたをえは
妙 東 歌

147

フリ

さえい添え
声 そ 教 々

148

おのゝたをえは
笙 笛 琴 篳 篥 孤 實 外 み み

149

あくじつのはいほやめい
落日 和 蘇 命 路 山

150

クリ入

みどりのうきは波にうき島か。
緑 なみ 浮

151

ハル

はろあらし
松 嵐 花 ぶ

152

5. 天女がさらに舞う

153

(シテ) ヨワ吟・拍子不合

154

三ツユリ

155

(地謡) フリ クリ 入マワシ

156

マワシ

157

(シテ) ワカ

158

ヨワ吟・拍子不合

159

(地謡)

160

161

(地謡)

162

163

164

165

166

6. 天女が去る

167

ヨロ吟-指合

168

(タリ)
(上) に
(中)
(下)

169

(タリ)
(上) あつまあやびのかずかずに
(中) 東 遊 歌 々
(下)

170

(タリ)
(上) その名もつきのいろは」とけ
(中) 月 色 人
(下)

171

(タリ)
(上) さんツツやちうのやらにまた
(中) 三 五 夜 中 空 又
(下)

172

(タリ)
(上) さんさんしんかかげて
(中) 満 腹 真 如 影
(下)

173

(タリ)
(上) ごんごんごんごんごんごんごん
(中) 御 腹 月 満 団 土 成就
(下)

174

(タリ)
(上) しんごんごんごんごんごんごんごん
(中) 七 空 充 満 宝 降
(下)

175

(タリ)
(上) ごんごんごんごんごんごんごん
(中) 団 土 施 給 (小)
(下)

176

177

178

179

180

181

182

183